

スリランカ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在スリランカ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

| 初等教育 | | | 中等教育 | | | 高等教育 | | | 学校教育以外 | | | 全体の合計 | | |
|------|-----|-------|------|-----|--------|------|-----|-------|--------|-----|--------|-------|-----|--------|
| 機関数 | 教師数 | 学習者数 | 機関数 | 教師数 | 学習者数 | 機関数 | 教師数 | 学習者数 | 機関数 | 教師数 | 学習者数 | 機関数 | 教師数 | 学習者数 |
| 16 | 25 | 1,239 | 185 | 227 | 16,702 | 20 | 44 | 3,350 | 129 | 354 | 13,359 | 298 | 650 | 34,650 |

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

スリランカの日本語教育は、1967年に首都コロomboの私塾で始まり、その後、1975年に大使館の日本語講座として受け継がれた。この講座は1994年からスリランカ日本語教育協会附属日本語講座として民営化され、民間の日本語教育機関の中心的存在となった。

高等学校卒業資格であり同時に大学入学資格試験でもある Advanced Level Examination（以下、Aレベル試験）は、1995年に最初のシラバス改訂が行われ、1997年にシラバス改訂後第1回目の試験が実施された。2003年の受験者数は537名であったがその後増加した。2020年は1,833名、2021年は2,022名、2022年は1,859名と横這いに推移したが、2023年は4,200名、2024年は4,828名と受験者数が急増した。

日本の中学校卒業資格と同等とされる Ordinary Level Examination（以下、Oレベル試験）は、2003年には536名が受験し、2006年には958名になった。2016年はシラバス改訂後初の試験で503人にまで減少した

が、2017年は764名、2018年は1,348名、2019年は1,616名、2020年は2,099名と大幅に増加してきた。それ以降は、2021年は1,850名、2022年は1,837名と、2,000名前後で安定した推移を見せている。しかし、2023年には4,500名へと急増し、さらに2025年には5,200名に達し、受験者数の拡大が顕著となった。

スリランカ日本語教師会により、Aレベル試験およびOレベル試験対策を目的としたセミナーが継続的に実施されている。具体的には、「Aレベルセミナー」および「Oレベルセミナー」として開催され、受験生や指導者に対して試験準備のための指導や情報提供が行われている。

背景

スリランカにおける日本語人気の背景には、歴史的な親日感情や、日本からの経済・教育支援による信頼関係がある。さらに、2022年の経済破綻を契機として海外移住や就労を志向する人々が増加し、その中で日本への留学や就労を希望する層が拡大したことから、日本語を学ぶ人が急増している。

特徴

1979年に日本語がAレベル試験の選択科目として採用されて以来、高校教育課程にも日本語が導入され、中等教育機関における学習者数は着実に増加してきた。学習動機としては、大学入試や資格試験への準備、さらには留学を目的とした実利的な理由が中心である。

社会経済状況の不安定化を背景に、2020年ごろから海外移住を志向する傾向が強まり、高校卒業後に国内大学へ進学するのではなく、ヨーロッパやオセアニア諸国を進路として選択する例が増えている。その中で、他のアジア諸国に比べて日本を選ぶ学生が目立ち、日本留学への関心が高まっている。こうした動きを受け、日本留学を推進するワークショップや関連イベントも盛んに開催され、一定のブームを形成している。さらに、日本での就労を目指す若者も増加しており、教育と労働の両面で日本との結びつきが強まっている。

最新動向

中等教育段階では、2015年1月に、Oレベルでシラバスが改訂された。それに伴い教科書もタイのJFバンコク日本文化センターで制作された『こはるといっしょに にほんごわあ〜い』（以下、『こはる』）をスリランカ用に一部改編したものを使用している。さらに、Oレベルシラバスにおける文化紹介部分については、独自の教科書が現在作成されている。

Aレベル日本語シラバスは2017年に改訂され、教材については従来通り『初級日本語総合教科書 スリランカ高校日本語 Aレベルーサチニさんといっしょー』（以下、『サチニ』）を改訂して使用している。

さらに、2026年度中には新しいAレベル用教科書の作成が予定されており、今後の日本語教育の質的向上と学習者のニーズに応える教材整備が進められている。

ケラニア大学では、全学部生を対象とした1年間の日本語サーティフィケートコースを開設している。2022年には初めて受講者数が1,200名を超え、大盛況となった。受講者の多くは「日本に行きたい」「日本で仕事をしたい」といった具体的な目的を持っている。2026年1月時点においても同コースは継続しており、約500名が受講している。これにより、日本語学習が大学生の間で安定的に定着しつつあり、日本留学や就労を目指す学生層の拡大が確認される。

教育段階別の状況

初等教育

スリランカ政府主導の日本語教育システムはないが、日本語の授業を行う学校が増えてきており、1年生から授業を行う学校もある。

中等教育

1979年に日本語がAレベル試験の選択科目として採用され、高校教育課程において第二外国語の一つとして日本語が導入された。これにより、日本語学習者数や教育機関は着実に増加した。さらに、2001年からはOレベル試験の選択科目にも日本語が加えられ、学習の裾野が拡大した。この時点では、常勤の日本語教師はおらず、非常勤講師という立場で教えていたが、2005年より日本語教師が公務員として正規採用される制度が始まった。2022年以降スリランカでは採用される日本語教師の数が急増し、2026年1月現在、全国的に約200名近く配置されている。

高等教育

2026年1月現在、高等教育省管轄17大学の中で日本語が学べるのは、ケラニア大学（人文学部現代語学科）、サバラガムワ大学（社会科学言語学部言語学科）、ミヒンタレーのラジャラタ大学（言語学科）、スリジャヤワルダナプラ大学（人文社会学科）の4校である。その他にビックスー大学（選択科目）、ブッディスト&パリ大学（General学位コース、サーティフィケートコース2つ）、コロンボ技術訓練大学、ゴール技術訓練カレッジ、モラトゥワ大学（選択科目）、ウーワウェラッサ大学（選択科目）、ルフナ大学（サーティフィケートコース）のほか、新しくコロンボ大学（サーティフィケートコース）でも日本語教育が導入されている。大学院レベルでは、Master in Japanese Studies がコロンボ大学で行われているほか、2022年ケラニア大学で Post Graduate-Diploma 日本語コースが開講され、2026年1月現在、2期生が学んでいる。

ケラニア大学及びサバラガムワ大学では、Aレベル試験で日本語を選択し、それに合格した学習者が継続して日本語を学ぶため、初級後半あるいは中級前半から学習を開始する。大学によって多少異なるが、卒業時の日本語能力は、N1合格者（主に日本留学経験者）が少数存在する一方で、N2レベルが多数を占め、N3レベルにとどまる学生も一定数確認される。

その他に、2013年3月にはキャンディのペラデニア大学にスリランカ日本研究センター（SLJSC：Sri Lanka Japan Study Center）が、2016年2月にはケラニア大学に日本学研究センター（RCJS：Research Centre for Japanese Studies）が設立された。

その他教育機関

学校教育に日本語が正式に導入される以前から、民間の日本語学校は既に存在していた。これらの機関は、日本語への関心、就職への有用性、日本渡航への希望など、多様な目的を持つ学習者を受け入れ続け、質的・量的な発展を遂げてきた。特にスリランカ人の日本での就職機会を支援する日本語教育機関の増加が顕著である。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

5-6 (4・2) -2 制。

初等教育は5年間。中等教育は下級中学校4年間、上級中学校2年間（Oレベル）、高校2年間（Aレベル）の合計8年間。義務教育は、5歳から14歳までであったが、2016年に5歳から16歳まで、すなわち初等教育から上級中学校までに引き上げられた。小学校から上級中学校、あるいは高校まで同一の学校で学ぶことができる。上級中学校卒業時の試験がOレベル試験、高校卒業時の試験がAレベル試験と呼ばれている。高校段階を持っていない学校で学ぶ生徒が高校に進学したい場合、Oレベル試験を受験し、その後別の高校に進学する。高等教育機関は、大学、教員養成学校、技術専門学校などがある。

教育行政

初等、中等教育については教育省及び各州教育部、高等教育については高等教育・情報技術省が管轄している。

言語事情

公用語はシンハラ語とタミル語。

英語はこの両言語をつなぐ言語とされている。

外国語教育

初等教育入学時から、英語を第一外国語（必修）として学習し始める。日本語などその他の外国語はその次に学ばれる第二外国語である。日本語はOレベル試験の選択科目となっており、10年生（上級中学校）から学習できる。2026年1月時点において、Aレベル試験では日本語を含む複数の外国語（フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、アラビア語、ヒンディー語、韓国語）が第二外国語の選択科目として設定されている。その中で、日本語を選択する学習者数が最も多い。Oレベル試験ではフランス語やドイツ語、ヒンディー語など8科目が選択科目となっており（第2外国語としてのシンハラ語、タミル語を除く）、日本語選択者数はAレベル試験と同様、最も多い。

外国語の中での日本語の人気

スリランカでは外国語の中で日本語は非常に人気が高く、英語を除けば最も広く学ばれている外国語の一つである。特に中等教育（Oレベル・Aレベル試験）での選択科目として定着しており、受験者数はフランス語やドイツ語、中国語などを上回っている。

大学入試での日本語の扱い

日本語は第二外国語の選択科目のひとつである。

4. 学習環境

教材

初等教育

指定教科書は特に決められておらず、各学校が教師の裁量に任せて教材を使用している。その多くは教師のオリジナル教材である。入門コースということもあり、ひらがな、カタカナ、数字の練習や基本的な日常の挨拶、

また子どもの遊び（カルタやおはじき、折り紙など）を紹介するなど、日本文化事情に関する教材が適宜使用されている。

中等教育

O レベル試験では 2015 年 1 月からシラバス改訂にともない、JF バンコク日本文化センターで作成した『こはる』を一部スリランカ用に改訂して使用している。一方、A レベル試験では、2010 年から現地で開発された『サチニ』が使用されている。2017 年度に A レベルのシラバスが改訂されたが、教科書は引き続き『サチニ』を一部改訂して使用している。

高等教育

大学では、科目に合わせ、日本やスリランカ国内で出版されたさまざまな教科書を使っている。

その他教育機関

初級、一般コースでは、『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）が使われる場合が多い。『いろどり』（国際交流基金）を使用する民間機関も増え始めている。

IT・視聴覚機材

日本語学習者が個人所有の PC で日本語を使用できるようにしているほかは、日本語で閲覧できる環境はほとんどない。都市部の中学校、高校にはコンピュータールームを持っている学校もあるが、日本語学習とは結びついていない。その他、CD や MP3 音源を使用した聴解の授業が行われているが、地方では CD ラジカセなどもない学校もある。

5. 教師

資格要件

初等教育

下記【中等教育】を参照。

中等教育

現行の教育制度において、初等、中等教育で政府が認める正規の教師になることができる。しかしながら、実際の教育現場においては、A レベル試験に合格し、日本語能力試験 N4 程度の能力を有する者が教師の主流を占めている。このため、教育学的な専門的訓練や教授法に関する体系的知識を欠く場合が多く、教育の質的向上に課題が残されている。さらに、常勤講師として正式に配置されるためには、教員採用試験に合格することが必須条件とされている。

高等教育

ケラニア大学

常勤講師：日本語専攻の学士号取得者あるいは修士号取得者。その他論文や学会発表などの業績を得点化し、そ

の得点が基準に達した者。非常勤講師として同一校に2年以上勤務した者は優遇される。

非常勤講師：学士号取得者。日本語科目の成績上位者（First Class）。基本的に契約期間は2年。その後の更新はできない。

時間給講師：1コマごとに契約を結んでいる講師。人数の制限などはなく、日本語科の判断で、必要な人数だけ雇用することができる。

その他教育機関

特に採用のための資格要件はないが、機関によっては日本語能力試験 N2 以上の日本語力、教育経験が求められる場合がある。

日本語教師養成機関（プログラム）

ケラニア大学においては、日本語教育の専門人材育成を目的とした日本語教師養成課程が設置されている。同課程は、言語運用能力の向上に加え、教育学的知識および教授法に関する体系的な訓練を提供するものであり、国内における日本語教育の質的向上に資する重要な役割を担っている。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

ネイティブ教師の数は非常に少ない。スリランカ日本語教育協会（JLEA）に民間ボランティア団体からボランティア教師が継続的に派遣されていたが2016年をもって派遣が打ち切られた。その他に主に民間日本語学校で現地在住の日本人が非常勤講師として雇用されている。彼らは会話など言語技能のための科目や日本文化などの科目を担当することが多い。

教師研修

国立教育研究所（NIE）は、不定期に中等教育段階の日本語教師を対象とした研修を実施している。さらに、ケラニア大学においては、2023年より「ブラッシュアップコース」と称し、中等教育に従事する教師の日本語能力向上を目的とした単発型研修を年に二～三回の頻度で開催している。加えて、2026年1月現在、同大学では中等教育の教師を対象とし、Aレベル日本語教科書を教材として用いながら、会話および読解指導法に関する講座（Teacher's Training Program）を実施している。

その他、JF 日本語国際センターで実施される訪日研修には、毎年数名の教師が参加している。

現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

機関の種別を問わず参加できる「スリランカ日本語教師会」が存在。月例会及びワークショップの場で日本語・日本文化を共に学び合うのみならず、スリランカでの各種日本文化行事に参加し、日本文化振興にも貢献をして

いる。

最新動向

2025年10月に「Aレベルセミナー」、2026年1月に「Oレベルセミナー」を開催した。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

日本語専門家

ケラニア大学 1名

スリランカ日本語教育協会 1名

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

青年海外協力隊・海外協力隊

- サバラガムワ大学 1名
- ラジャラタ大学 1名
- キャンディ教育事務所 1名
- 英語・外国語局（コロンボ） 1名

その他からの派遣

なし

8.シラバス・ガイドライン

初等教育

初等教育では、現在、日本語のシラバスがないため、教師が各自で授業計画を立て授業を進めている。

中等教育

Aレベルでは、1995年に最初の改訂がなされ、1997年に改訂後第1回目の試験が行われた。その後、2009年に再改訂されたシラバスでは、2年間の学習で初級（日本語能力試験N4）レベル程度に到達するとされている。さらに、それに準拠した教科書『サチニ』が2010年に完成し、現在もその教科書が使用されている。2011年には再改訂されたシラバスに準拠した試験が実施された。2017年にも再度シラバスが改訂されたが教科書は今ままで同様『サチニ』を使用する。2015年に、Oレベルでもシラバス改訂作業が行われ教科書は『こはる』に変更された。今後、AレベルおよびOレベル双方において、シラバス改定が予定されている。

高等教育

統一されたシラバスは特になく、各大学が独自のシラバスで教育を行っている。ケラニア大学では 1995 年に中級以上のシラバスを導入した。それによって、高等学校で初級までの学習を修了した学生が継続して学習することができるようになり、上級までの学習体系が整った。

その他教育機関

統一シラバス・ガイドラインは特になく、各校が独自に開発したシラバスでコースを運営している。

[シラバス・ガイドライン一覧へ](#)

9.評価・試験

JF が実施する日本語能力試験、国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic)、独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験がある。日本語能力試験は日本語運用力の目安として浸透しており、ほとんどの日本語学習者が受験する。

また、O レベル試験、A レベル試験では、日本語が第二外国語の選択受験科目のひとつとなっている。(O レベル試験、A レベル試験については、「教育制度と外国語教育」参照)。

10.日本語教育略史

| | |
|--------|--------------------------------------------|
| 1967 年 | 私塾にて日本語教育開始 |
| 1975 年 | 私塾を引き継ぐ形で、大使館で日本語講座開講 |
| 1978 年 | ケラニア大学にて課外コース開講 |
| 1979 年 | A レベル試験選択科目に日本語を採用 |
| 1980 年 | ケラニア大学にて日本語の学位取得コース開講 |
| 1994 年 | 大使館日本語講座が民営化 (スリランカ日本語教育協会附属日本語講座) |
| 1995 年 | A レベルのシラバスを改訂 |
| 1996 年 | サバラガムワ大学に日本語科開講 |
| 2001 年 | O レベル試験選択科目に日本語を採用 |
| 2008 年 | スリランカ日本語教師会主催、日本大使館後援による「第 1 回日本語教育セミナー」開催 |
| 2009 年 | A レベルのシラバス再改訂 |
| 2011 年 | 新シラバスに対応した A レベル試験を実施 |

| | |
|-------|-----------------------------------------------------|
| 2013年 | ラジャラタ大学にて、日本語講座開講 ペラデニア大学にスリランカ日本研究センターを設立 |
| 2014年 | ケラニア大学にて日本語専科コース開講 |
| 2015年 | Oレベルのシラバス改訂 |
| 2016年 | ケラニア大学に日本学研究センターを設立 |
| 2017年 | Aレベルのシラバス改訂 |
| 2018年 | 外国人技能実習制度の二国間取り決め締結 |
| 2019年 | 在留資格「特定技能」を有する外国人材に関する制度の適正な実施のための基本的枠組みに関する協力覚書の手交 |
| 2021年 | 国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）実施開始 |
| 2022年 | ケラニア大学にて Post-Graduate Diploma コース（日本語）開講 |
| 2022年 | スリジャヤワルダナプラ大学に日本語科開講 |
| 2025年 | ケラニア大学にて Teacher's Training Program（日本語）開講 |

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）